

関西学院千里国際中等部
2026 年度入学試験 国語

国語

- ・ 問題は 6 ページ、解答用紙は 1 枚あります。
- ・ この冊子と解答用紙に受験番号を書きなさい。
- ・ 字数制限のある場合は、「、」「。」もふくみます。

受験番号	
------	--

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子どもの頃の僕にとって、野鳥は遠い存在だった。

庭に来るスズメやキジバト、ゴミをあさるカラスなんかはまだよいが、たいいての鳥は木の高いところに止まっているし、すぐにどこかへ飛んでしまう。水辺に浮かぶカモたちも、一見、プカプカ呑気に見えるが、(A) ゆっくり歩み寄ってもスーツと遠くに泳いでしまう。

野鳥は好きだが、もっと近くで観察したい。そんなこともあって、①幼少期の僕の興味は他の生き物へと向いていた。ダンゴムシやバッタ、クワガタ、ヤドカリ、カエル、ドジョウ、ナマズ。いろいろな生き物を捕まえては家に持ち帰り、プラケースや水槽で飼っていたのだ。そして、生き物たちを(B)と見つめながら、「かれらはどういうふうにいる世界を見ているんだろう?」などと想像するのが好きだった。

そんな僕と野鳥との距離が縮まったのは高校生の頃。お年玉で双眼鏡を買ったのがきっかけだった。

双眼鏡とはαスバラしいアイテムだ。これさえあれば、驚かすことなくビアップで鳥たちを観察できる。ムクドリムクドリの群れやツバメの巣作り、カワセミの子育てなど、日が暮れるまで見ていても、飽きたことは一度もなかった。それどころか、観察すればするほどその楽しみは増していき、僕はバードウォッチングにハマっていった。

②バードウォッチングには、生き物を飼育するのとまったく違う魅力があった。虫や魚をケースに入れて観察するのは、自然の一部を切り出して自分の手元に置くことだ。そこには天敵もいなければ、食べ物もこちらで準備する。一方、野鳥の観察とは、かれらが自然界を生き抜く姿をありのままに見ることなのだ。食べ

物を探し、仲間と集まり、子育てをして、時には敵に立ち向かう。野鳥を観察していると、(C)自分が小鳥になって、かれらの世界へと入っていくような、そんな不思議な感覚があった。

動物たちの世界を知るとは、まさにこういうことなのかもしれないと、大事な気づきを得た気がしていた。

その頃の僕の愛読書といえは、『月刊むし』や『BIRDER(バード)』などの生き物関係の雑誌だったわけだが、それとは別に、図書館内のある一角にも面白い詰めて本を読み漁るようになっていた。

コンラート・ローレンツ(Konrad Lorenz)の『ソロモンの指環』、ニコラス・ティンバーゲン(Nikolaas Tinbergen)の『鳥の生活』、カール・フォン・フリッシュ(Karl von Frisch)の『ミツバチの不思議』。これらは、動物たちの本能や学習、そして行動の進化まで、目から鱗の自然観が書き記された、動物行動学の本だ。

動物行動学とは、ローレンツ、ティンバーゲン、フリッシュが確立した学問。動物たちを観察して、③かれらのふるまいがどういう意味を持っているのか解き明かす分野である。

「僕の大好きな生き物の観察がそのまま学問になっている。百年前に生まれたら遊び」と言われていたかもしれないが、今では「学問」なのである。学者になれば、一生好きな動物の観察をして過ごしていけるかもしれない。④この時代に生まれてよかった」と僕は思った。

そして僕は鳥の研究ができる大学へと進学し、研究者を目指す決意を固めた。研究者にとって一番大切なこと。それは、「何を対象にどんな研究をするのか」だ。ローレンツならハイイロガンの刷り込み、ティンバーゲンならトゲウオの婚の色、フリッシュならミツバチのダンス。すばらしい研究者には、何か一つ、

その人の成し遂げた、その人を象徴する研究テーマがあるものなのだ。僕にも生涯をかけて解き明かしたいと思えるような、夢中になれる研究テーマが見つかるだろうか？

そんな思いで、大学生の頃は、週末は必ず野鳥の観察に出かけていた。林や森、cヒガタにd河川。春休みや夏休みにはeチヨキンをくずして遠くの離島へも出かけた。

コサギの狩りやチヨウゲンボウの繁殖、エナガの巣作りなど、どれを観察しても面白く、あっという間に日が暮れる。

観察していて気づいたことは、何でもフィールドノートに書き込んでいった。⑤だが、「これだ!」と思える研究テーマはなかなか見つからない。野鳥がどんな食べ物を食べているのか、どうやって巣を作るのかなどは、時間をかけて調べてみればわかることだ。そうではなく、誰も想像すらしていない未知の世界もあるはずだ。⑥僕はそんな世界を探究したいと思っていた。

『僕には鳥の言葉がわかる』 鈴木俊貴

問一 ―― 線a、eのカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 (A) (C) に入るもっとも適当な言葉を、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア じっくり イ あたかも ウ いくら エ とても

問三 ―― 線①「他の生き物へと向いていた」理由として、もっとも適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 野鳥をもっと近くで観察するために、他の生き物でしばらく練習しようと思ったから。

イ 遠い存在の野鳥よりも近くで捕まえられるダンゴムシの魅力によりやう気が付いたから。

ウ 色々な生き物に興味を持っていたので、身近で飼育できる生物を観察しようと思ったから。

エ 子どもの僕にとってふさわしい生き物は、ダンゴムシやバッタなどの陸上の生き物だから。

問四 ―― 線②について、次の問いに答えなさい。

i バードウォッチングと生き物の飼育の特徴をまとめた表を作成した。表の空欄A、Bのそれぞれにふさわしい部分を二十字程度でぬき出して答えなさい。

種類	特徴
バードウォッチング	A
生き物の飼育	B

ii 「バードウォッチング」の「魅力」を説明したものととして、もっとも適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 生き物の本来の姿を観察することで、自分もその世界の一員になつたように感じることができる。

イ 双眼鏡を使用することで、仲間と集まったり食べ物を探したりする姿を遠くから観察できる。

ウ 生きる苦労がない状態にすることで、安心して生活する姿を満足するまで研究できる。

エ 生き物が自然界を生きぬく姿を見ることで、彼らが自然の中で苦労していることを実感できる。

問五 —— 線③「かれらのふるまい」とありますが、その具体例を問題文から一つぬき出して答えなさい。

問六 —— 線④「この時代に生まれてよかった」理由として、もっとも適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 双眼鏡を使うことで、色々な野鳥の観察が自由にできるようになったから。

イ 動物行動学を確立させた学者たちの研究について多くのことを学べるから。

ウ 動物行動学により動物の色々な行動の意味が全て解き明かされているから。

エ 動物の観察が学問になるので、学者になれば好きな観察が一生できるから。

問七 —— 線⑤「これだ!」と思える研究テーマ」はどのようなものですか。

当てはまるものを三十字前後で探し出して、最初と最後の五文字を答えなさい。

問八 —— 線⑥「僕はそんな世界を探究したい」とありますが、「僕」がしたいことを四十字以内で説明しなさい。

問九 「僕」が研究者を志した理由としてもっとも適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 幼いころから野鳥にばかり興味があつた筆者は、バードウォッチングを通して動物行動学という学問を知り、研究者を目指すことを決意した。

イ 幼いころから生き物を飼育していた筆者は、バードウォッチングをした時に研究者になろうと決意し、野鳥の色々な行動を観察するようになった。

ウ 動物が好きな筆者は、生き物の飼育やバードウォッチングをする中で、動物の行動の観察が学問になることを知り、研究者になることを決意した。

エ 生き物の飼育やバードウォッチングをする中で、動物の世界の魅力を知った筆者は、動物行動学の研究者として動物の行動を管理しようと思った。

オ バードウォッチングから大事な気付きを得た筆者は、動物行動学の書物を読んで色々な研究者がいることを知り、自分も研究者になれると思った。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

盲腸炎もうちようえんで入院した「おれ」は、病院の談話室で「ばあちゃん」と仲良くなる。おれより先に退院したばあちゃんは、その時おれにケーキをプレゼントしてくれた。

ばあちゃんにケーキのお礼、言ってねえ。

そんなことが妙みょうに気になり出したのは、退院してからだった。

すっかり良くなって元気いっぱい、先生や同室かんじやの患者さんにお礼を言って懐なつかしの我が家に帰ってき、すぐにでも働くつもりだったのに。

社長が心配してき、言うんだよ、お前は少しゆっくりしろと。仕事の波も落ち着いてるから、無理して出てこなくていいと。平気だって言ってるのに……。

① 仕方ないから一週間、休みをもらった。

けど、特にやることもなくてよ。(A) しているうちに、ふとばあちゃんの顔が頭に浮うかんできたってわけなんだ。

鎌倉かまくらの主治医にお世話になるって話だった。なら、そのあたりに住んでるのかもしれない。住所も連絡先も知らないけれど、行ってみようかと思った。会ってお礼ができたならそれでいいし、会えなくてもばあちゃんの住んでいる街の空気、② 吸すってみたかった。

おれ、その日のうちに財布だけ持って、電車に乗った。ぼーっと車窓くるまどから外見て過すぎして、鎌倉駅で降りた。来てみたはいいものの、どうすりゃいいのかわからねえ。適当に歩き出した。

松が生えててよ、古びた家が (B) あって、遠くに鳥居が見えて、面白い景色だったよ。bツツウとか神社とかcカンコウスポットもあるみたいだったけど、おれ、それほど興味なし。海の方に向かってぶらぶらと歩いていった。ふ

と先が開けて、白い砂浜すなはまが広がった。

吹き抜けていく風が気持ち良くて、立ち止まった。

ビーチに人影ひとかげはほとんどない。波がそっと寄せては返してる。どこまでも続く空と海。とんでもない量の水。おれの住んでいる星、③ こういう星だったのかあってね、ため息出た。

海沿いに点々と店が並んでてよ。釣具屋つりぐだの、飯屋だの、喫茶店きっさてんだの。ちょうど腹が減ってたから、近くの飯屋に入って、海鮮定食を注文した。八百円。客はおれ一人だけ。席は開けっぱなしの窓の前。海が目の前に広がってたんだ、風がそのまま入ってくるんだ。お椀わんを持ち上げて口に運ぶ。まるで海をすくって飲んでいるよう。

口の中に (C)、温かいスープが広がった。

潮汁うしおじゆってやつだな。魚や貝をぶち込んで作った、よくある汁物じゆもの。だけどその瞬間しゆんかん、ぐわっとこう、一気に来た。

うっめえなあ、これ。

(D) を鳴らして飲み込んだ。

何だこりや。めっちゃやくちや、うめえぞ。八百円は安すぎないか。

体が回復してきたからなのかな。長いこと病院食ばかり食ってたからか。とにかく感動の味でさ。だけどこんな勢いで食べたなら、すぐになくなっちゃう。惜おしみながら、少しずつ大切にすすらなきや、と自分に言い聞かせた。そうしたらさ、とんでもないことに、壁かべにこんな張り紙があるんだ。

「潮汁 おかわり自由」

④ ありえんだろ。

(中略)

「はいお兄ちゃん、潮汁。それから生しらすも良かったら、おかわりするかい？」

「え？ こんなうまいものを？」 ④いや、それはさすがに」

「気にすんなって。ここいらじゃ、いっぱいとれるんだ」

「いっぱいとれる？」

絶句しちゃったよ。

ああもう、この刺身も、醤油も、米も、全部うまいじゃねえか。海藻と大根のサラダ、ぶつぷつ、しゃきしゃき、⑤歯が歌う。デザートには葡萄が三粒。見た目は宝石、食べると甘露。

⑥豊かすぎないか？ こんなにもてなされていいのかよ。

みんながみんな、よってたかっておれに優しくしているような気がした。

店主のおっちゃんも、野菜や果物を作ってる農家さんも、魚をとってきた漁師さんも、味噌だの何だの作ってる人も、その人たちの使う道具を作ってる人も、車や道路を作ってる人も、電気や水道やガスを管理している人も……人だけじゃない、しらすも、魚も、葡萄も、植物も動物も海も空も、何もかも。そう、世界だ。世界がおれを、さんざんにおdイワいしているみたいだった。

⑦あー、これが。ばあちゃんの言ってたことは」

おれは思わず宙を見つめて呟いた。世界中がキラキラ輝いている、笑顔でおれを取り囲んでる。

「そうだよなあ。あの日だって、本当にみんなが意地悪だったら、救急車なんか来ないよな。病院にも行けず、おれは今ここにいなかったかもしれない」

ばあちゃんの笑顔が、ふっと頭をよぎった。

「いい日も悪い日も、見方次第ってわけか」

「一人で何喋ってんだい、あんた」

おっちゃんが団扇をおおぎつつ、(E)をひそめてこちらを見ている。

おれはもう一杯、潮汁のおかわりを頼みつつ、聞いてみた。

「そういや、このエアコン、なんかカラカラ鳴ってますね」

「ああ、調子が悪くてよ、冷えも悪いんだ。電気屋に見てほしいんだが、予約が取れねえんだわ。人手が足りないとかで」

⑧なら、おれがやりましょう」

「え、何で？」

「大丈夫、ちゃんとeシカク持ってますんで。工具だけ借りていいですか。真空ポンプとか」

「そんなないけど。近所の人に聞けば、誰か貸してくれるかも」

おれ、食い終わってすぐ、エアコン工事に取り掛かった。おっちゃんからすると、やけに親切な客に見えただろうな。ただおれ、少しは役に立ちたかったんだ。

違う言い方をすりゃあ、拗ねてた自分が少々恥ずかしくなった。それから、自分もこの輝く世界の一員になりたいと思ったのさ。

『今日も誰かの誕生日』 二宮敦人

問一 〓線 a e のカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 (A) 〓 (E) について

i (A) 〓 (C) に入る適当な言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア いそいそ イ ゆらゆら ウ だらだら

エ ぽつぽつ オ ふわり カ ぐらり

ii (D)、(E) に入る言葉を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 耳 イ 眉 ウ 鼻 エ 喉

問三 〓線 ① 「仕方ない」に込められた「おれ」の気持ちを答えなさい。

問四 〓線 ② とあるが、「吸ってみたかった」理由として、もっとも適当なもの

ものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ばあちゃんと一緒に暮らしてみたいと思ったから。

イ ばあちゃんの生活を身近に感じてみたかったから。

ウ ばあちゃんが自分を呼んでいるような気がしたから。

エ ばあちゃんにどこかで出会えそうな予感がしたから。

問五 〓線 ③ とあるが、この「ため息」が出た理由の説明として、もっとも

適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア あまりにも広いので「ばあちゃん」の家を探すのが少し嫌いやになっている。

イ 誰もいなくなった広い砂浜に自分ひとりひとりでいる不思議むかしさに驚おどろいている。

ウ どこまでも続く空の広さと海の果てしのなさに直面して感動している。

エ 自分がたった一人で広い砂浜に寂さびしく悲しくなっている。

問六 〓線 ① 「ありえんだろ」、㊦ 「歯が歌う」の意味として、もっとも適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

① ア ばからしい イ 気づかない

ウ ふさわしくない エ 信じられない

㊦ ア やすらぎ イ とまどい ウ きらめき エ よろこび

問七 〓線 ④ 「それはさすがに」とあるが、「さすがに」の後に言いたかったことがわかるような言葉を付け足しなさい。

問八 〓線 ⑤ 「もてなされていいのかよ」とあるが、この時の「おれ」の気持ちの説明として、もっとも適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア あまりにいいことが続くので、次にどうするかためらっている。

イ この日に会おうすべてのものがすばらしすぎて、とまどっている。

ウ 「おっちゃん」の気前の良さに、何かあるのではと疑いを持っている。

エ 海鮮定食がおいしいので、日ごろの食事のひどさに腹が立っている。

問九 〓線 ⑥ とあるが、「おれ」はどんなことに気がついたと考えられますか、三十字以内で説明しなさい。

問十 〓線 ⑦ とあるが、どうして「おれがやりましょう」と言ったのでしょうか。その理由を四十字前後で答えなさい。

問題は以上です

受験番号

--

--

【 一 】

	問一	問二	問四 i	問四 A	問五	問六	問八	問九
	a	A	B	C	問七	ii	B	
	らしい	B						
	b	C						
	c	問三						
	d							
	e							

【 二 】

	問一	問二	問三	問四	問六	問七	問八	問九	問十
	a	A			ⓐ				
	b	B		問五	ⓑ				
	c	C							
	d	ii							
	お	D							
	い	E							
	e								